

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

| | | | | | |
|----|-------|----|----|----|----------------------|
| 氏名 | 杉本 有紗 | 職名 | 講師 | 学位 | 人間環境学(修士)(九州大学2003年) |
|----|-------|----|----|----|----------------------|

| | |
|-----------------|--|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 認知症高齢者の臨床心理学的援助 | 認知症、高齢者、施設入所、対人交流、コミュニケーション役割、役割意識、援助的介入 |

| |
|---|
| 研究課題 |
| 認知症高齢者の臨床心理学的援助に関して、個別の実践事例を積み重ね、具体的援助方法を考察する。また、援助対象となる認知症高齢者の心理について、対人交流および役割意識という観点から考察していく。その際、援助プロセスに伴う認知症高齢者の心理的変化プロセスについても考察する。さらに、認知症高齢者の対人交流形成とその効果を評価するため、コミュニケーション役割や役割意識の評価方法についても検討していく。 |

| |
|---|
| 担当授業科目 |
| 初年次セミナーⅠ(前期)(福祉学科) ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科) 心理学概論Ⅰ(前期)(福祉学科) 発達心理学Ⅱ(前期)(福祉学科) 発達臨床心理学演習(前期)(福祉学科) 初年次セミナーⅡ(後期)(福祉学科) 臨床心理学概論(後期)(福祉学科) 社会心理学(後期)(福祉学科) 福祉臨床心理演習Ⅲ(後期)(福祉学科) 心理学基礎実験(後期・2コマ)(福祉学科) コミュニティ心理学(後期)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科) 専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科) |

| |
|--|
| 授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項) |
| <p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>本演習では、1年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。</p> <p>2018年度は12~13名のグループを1グループあたり6回、全2グループを担当した。課題図書の要約・読解、意見の述べ方、文献の引用、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課し、体験的に理解が深まるよう工夫した。個人へのフィードバックを重ね、最後に一つのブックレポートを作成させた。学生1人1人がそれぞれの現在の学習スキルへの気づき、成長のヒントが得られるよう指導を心掛けた。</p> |
| <p>授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】</p> <p>本演習では、新入学というタイミングでヒューマンサービスの基礎となる対人場面でのスキルアップを目指した。12名前後のグループを1名の教員で担当し、一人ひとりの学生が対人場面における自己のスキルや心理への気づきが得られるよう促した。毎回小レポートを課し、フィードバックを行うなど、学生が積極的に課題に取り組めるよう工夫を行った。</p> |
| <p>授業科目名【 心理学概論Ⅰ 】</p> <p>本講義では、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学の研究手法、基礎となる理論や著名な研究、導き出された理論等、心理学の概論について解説を行った。分野が多岐に渡るため、学生の記憶の定着を図るべく、毎回、前回の内容を振り返る時間を設け、前回の授業後に提出された小レポートを踏まえて補足説明を行った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。試験前には、</p> |

| |
|--|
| <p>積極的に質問を受け付け、研究室での個別指導も行った。</p> |
| <p>授業科目名【 発達心理学Ⅱ 】</p> <p>本講義では、青年期から老年期までの人間の発達を、身体的、認知的、心理社会的側面から解説を行った。青年期、中年期の発達を概観し、老年期を中心に据えることで人生後半期における発達の变化を捉えられるようにすすめていった。適宜プリントを配布し、具体的な例を挙げながらテキストを読み深め、パワーポイントにて要点をつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう、心掛けた。</p> |
| <p>授業科目名【 発達臨床心理学演習 】</p> <p>本演習では、事例論文についての解説ののち、論文講読を行った。発達心理学、臨床心理学に関係する事例論文を学生が持ち寄り、論文講読、学生同士のディスカッションを行うことで、この分野の理解を深めるよう促した。学生の興味に沿って積極的な発言を促したりするなど、学生の参加しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。論文の比較についての課題を課すなど、各臨床分野での最新の研究の動向について整理し、理解が深まるよう指導した。</p> |
| <p>授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】</p> <p>本演習では、1年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。</p> <p>2018年度は12～13名のグループを1グループあたり6回、全2グループを担当した。課題図書の本の要約・読解、意見の述べ方、文献の引用、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課し、体験的に理解が深まるよう工夫した。個々人へのフィードバックを重ね、最後に一つのブックレポートを作成させた。学生1人1人がそれぞれの現在の学習スキルへの気づき、成長のヒントが得られるよう指導を心掛けた。</p> |
| <p>授業科目名【 臨床心理学概論 】</p> <p>本講義では、臨床心理学の基礎となる精神分析理論、学習理論、人間性心理学の理論と、フロイト、エリクソン、クライン等の発達理論、またそれらの理論に基づく心理療法、心理アセスメントについて解説を行った。</p> <p>専門用語などは初めて聞く学生も多いため、テキストに加え補足プリントを配布し、語句や概念の理解を促した。毎回、前回の内容を振り返る時間を設けるようにした。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。</p> |
| <p>授業科目名【 社会心理学 】</p> <p>本講義では、社会心理学の基礎となる理論や著名な研究、社会心理学の概論について解説を行った。</p> <p>日常生活との接点を考えることが、理論の理解に結び付きやすいため、毎回、紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて小レポートにするよう促し、次回始めに授業内にてフィードバックし、知識の定着を図った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートのフィードバックを行うことで、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。</p> |
| <p>授業科目名【 福祉臨床心理演習Ⅲ 】</p> <p>本演習では、高齢者臨床におけるアセスメントや心理面接についての指導を行った。発達の側面からの理解を振り返った上で、臨床場面における高齢者の心理について考えながら、アセスメントの手順、アセスメントの際の配慮、アセスメントのフィードバックのあり方について、演習を行った。また、認知症高齢者の心理についてビデオや文献を通して理解した上で、心理療法の目的、手順、具体的配慮、前後のアセスメントについて、演習を行った。具体的な手続きを学ぶことで、学生が心理的課題への理解を深められるよう工夫した。</p> |
| <p>授業科目名【 心理学基礎実験 】</p> <p>本演習では、心理学の具体的な研究手続きについて演習を行った。目的に沿った研究方法、データ収集、データ解析を指導した。また、問題と目的、方法、結果、考察という形式に則った論文レポートにまとめる作業について指導した。学生の理解、課題の進み具合に沿って指導を行った。</p> |
| <p>授業科目名【 コミュニティ心理学 】</p> <p>本講義では、コミュニティ心理学の基本的理念と具体的実践についての講義、解説を行った。4年次開講科目ということもあり、一方的な講義ばかりではなく、疑問提示や質問をする機会を積極的に設けることで、議論しながらこれまで身につけた臨床心理学や社会福祉学の理論と比較する中で、コミュニティ心理学の特徴について理解を深めるよう工夫した。</p> |

授業科目名【 専門研究Ⅰ 】

本年度は受講する学生は2名であった。前期は、学生の関心のある領域の研究論文を選択するよう課題を課し、各専門分野における研究の動向と課題についてディスカッションを行った。後期は、学生が関心を有していた調査系論文の読解力を高めるため、心理統計の手法と心理統計を用いた論文の書き方について解説した専門書を読み合わせ、研究手法の理解を深めるよう促した。

授業科目名【 専門研究Ⅱ 】

本年度は受講する学生は1名であった。前期の始めに、学生が関心のある領域から研究テーマを決定するよう促し、1年間を通して研究レポートの作成を指導した。

学 会 に お け る 活 動

| 所属学会等の名称 | 役職名等 (任期) | 加入時期 |
|----------------------------------|--------------------|-------------|
| 日本心理臨床学会 | 会員 | 2001年～現在に至る |
| 日本臨床心理劇学会 (2018年4月、西日本心理劇学会より改名) | 監事 (2012年4月～現在に至る) | 2001年～現在に至る |
| 日本リハビリテーション心理学会 | 会員 | 2002年～現在に至る |
| 日本発達心理学会 | 会員 | 2007年～現在に至る |
| 日本心理学会 | 会員 | 2008年～現在に至る |

2018年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称 | 概 要 |
|----------------|-------------|---------------|-------------------------|-----|
| (著書) 該当なし | | | | |
| (学術論文) 該当なし | | | | |
| (翻訳) 該当なし | | | | |
| (学会発表) 該当なし | | | | |

| 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む） | | | |
|---------------------------------|------|----------------------|-----------------|
| （１） 共 同 研 究 | | | |
| 研 究 題 目 | 交付団体 | 研 究 者 ○代表者（）内は学外者 | 交付決定額 (単位：円) |
| 該当なし | | | |

| 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む） | | | |
|---------------------------------|------|-----------------|-----|
| （２） 個 人 研 究 | | | |
| 研 究 題 目 | 交付団体 | 交付決定額 (単位：円) | 備 考 |
| 該当なし | | | |

| 社 会 に お け る 活 動 等 | | |
|---------------------------|--------------|-----------------------|
| 団体・委員会等の名称 (内 容) | 役 職 名 等 | 任 期 期 間 等 |
| 九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター | 研究員 | 2018年4月～2019年3月（1年間） |
| 大分県中津児童相談所 | 非常勤心理判定員 | 2018年4月～2019年3月（月1回） |
| 大分県中津児童相談所 | 児童養護施設職員研修担当 | 2018年10月～2019年1月（月1回） |
| 福岡女学院大学 | 講師（集中講義） | 2018年8月28日～30日（3日間） |
| 放送大学 | 講師（実技講習） | 2018年10月27日、28日（2日間） |

| 学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など） |
|---|
| (大学) 公開講座委員会 委員 (学科) ヒューマンサービス基礎演習 担当 保護者向けニューズレター 担当 |